

【基盤研究(S)】

人文社会系 (社会科学)



研究課題名 「アフリカ潜在力」と現代世界の困難の克服：人類の未来を展望する総合的地域研究

京都大学・大学院文学研究科・教授 まつだ もとじ
松田 素二

研究課題番号：16H06318 研究者番号：50173852

研究分野：地域研究

キーワード：アフリカ、潜在力、開発、環境、紛争

【研究の背景・目的】

本研究の目的は、アフリカを救済・同情の対象あるいは資源の供給源や有望な市場とのみみなしてきた従来の認識を刷新し、アフリカが有する問題解決と発展への潜在力を解明し、それが有する人類社会に対する貢献の可能性について総合的に検討することにある。今日のサブサハラ・アフリカ社会は、世界経済成長の一つのエンジンへと変貌しつつある。しかしその一方で、社会的格差の拡大、宗教・民族間の対立、環境破壊等の困難はより深刻化している。こうした状況に対して、従来の西欧近代出自の思考と発想が無視してきたアフリカ社会のダイナミックな対処能力を、アフリカ潜在力として抽出・概念化し、それを活用することで問題解決を展望する。こうした試みを通して、アフリカ潜在力の母胎となる知の様式を、もう一つの世界認識を可能にする、アフリカ発の新たな人文・社会科学的知として提示することを目指す。

【研究の方法】

本研究の研究計画は以下の三段階で構成される。第一段階は、アフリカ社会が直面している問題を歴史的経緯と社会的動態のなかで同定し、多種多様な処方箋を洗い出す。第二段階では、処方箋の比較検討を通して「アフリカ潜在力」の効果や作用メカニズムを検討する。第三段階では、「アフリカ潜在力」が様々な分野の問題解決において有効に機能する領域を特定し、その領域に対して集約的な共同調査を実施する。そのための研究方法としては、三つの系

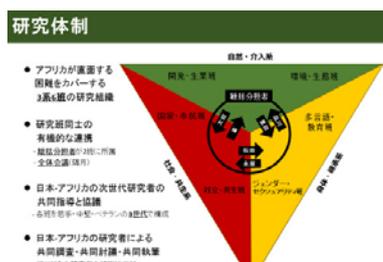


図1 研究体制

(自然・環境、社会・共生、身体・継承) にそれぞれ二つの研究班を設け、それらの成果を学際的に

統合する総括班をコアにして 6 班を有機的に連結させる。研究班は女性研究者の中核的参加と各世代のアフリカ研究者、および「アフリカ潜在力」に共鳴する 8 名の第一線のアフリカ人研究者の参加を特徴としている。

【期待される成果と意義】

「アフリカ潜在力」という新たな視点で、アフリカの困難・問題を実践的に解決・改善していく可能性を具体的な社会と具体的な課題の中からあきらかにする。そして、「アフリカ潜在力」をアフリカの問題解決の実践的スキルとして捉えるだけでなく、それを支える思考や知の様式が、これまで人文・社会科学的知のなかで支配的地位を独占してきた西欧近代出自の知の様式とは異なる視点と思考をつくりだしている「アフリカ潜在力」を定式化することによって、西欧近代的知の様式とは別の世界のあり方の

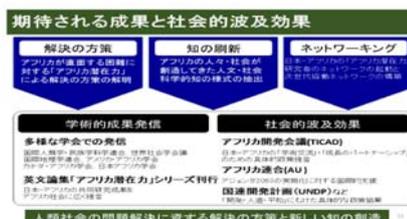


図2 期待される成果

可能性を、人類の未来の知的資産として展望する。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・松田素二・平野(野元)美佐編『紛争をおさめる文化』アフリカ潜在力1、京都大学学術出版会、2016。
- ・松田素二編『アフリカ社会を学ぶ人のために』世界思想社、2014

【研究期間と研究経費】

平成28年度－32年度 140,000千円

【ホームページ等】

<http://www.africapotential.africa.kyoto-u.ac.jp/mms/>